

# 下野市立薬師寺小学校

## 1 学校課題

### 対話活動を重視した、学びが深まる授業の創造

～対話活動を充実させ、児童自身が深い学びを実感できる授業を目指して～

## 2 研究計画

### (1) 研究の方針

- ① 対話活動を充実させ、児童自身が深い学びを実感できる授業を創造する
  - ・身に付けさせたい力を明確にした対話活動を充実させる
  - ・授業のゴールを明確にし、その実現のための効果的な発話の内容を吟味する
  - ・付けるべき力を目指して効果的な学習過程を工夫する
  - ・発話を重視した授業を展開する
- ② 共通理解と共通実践をもとに、組織的な取組を充実させる
  - ・校内研修において、教師達が学び合う関係を築く
  - ・授業を内から開き、授業力を向上させるための授業の公開を目指す
  - ・教育専門家を招き、児童の変容を見取る力や授業力の向上を図る
  - ・授業の振り返り、検討会の振り返り、研究の振り返りを充実させる
- ③ 小中一貫教育を意識した系統的な指導と実践
  - ・小学校と中学校の密な連携を意識した研究をし、系統性のある指導をする
  - ・「知っていること、できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」の育成
  - ・「育成すべき資質・能力」を研究する

## 3 研究内容

### (1) 研究の方法

#### ① 実践研究授業を通して授業の質を高める

原則として研究授業公開は一人一回実施する。児童の学びが深まるように効果的な対話活動や発話を重視した授業を研究し、授業実践を行う。また、S&U コラボ事業を活用し、宇都宮大学教授、市教育委員会指導主事の先生に直接指導を受けることその他、宇都宮大学教職員大学院生や市内教職員など、広く外部に授業を開くことで、本校全体の学びを深めていくこととする。さらに、研究の推進については、職員を低、中、高の3ブロックに分け、各ブロックで指導案検討会や事前授業及び授業検討会を進める。なお、研究授業の事前授業も一人一回の授業公開に入れることとし、全職員で参観する。

#### ② 授業検討会を充実させる

S&U コラボ事業として対話活動における児童の見取り方について宇都宮大学教授の指導を受け、学びの質を高め、児童の変容の見取りを生かした授業検討会を行うこととする。研究授業においては、参観者が重点的に観察する児童をあらかじめ分担しておき、児童の事実と変容を見取りやすくする。授業検討会では、少人数での話し合いを取り入れ、活発に発言できる雰囲気作りを心がける。また、検討会の内容を充実させるため、視点を絞った話し合いを行う。さらに、話し合いの進め方や意見のまとめ方についての研修を事前に行い、より充実した検討会を目指す。



(2) 研究の実際 主な実践内容

日時	形態	授業者	教科	授業内容	学年
4/11(水)	校内研修	学校課題研修	学校課題の説明		研究主任
5/8(水)	校内研修	学校課題研修	授業研修計画の確認		研究主任
6/19(月)	S&U事業	講話「対話活動における児童の見取り方」 宇都宮大学 松本 敏 教授 市教育委員会 岡本 直美 指導主事			研究主任
7/4(水)	S&U事業	篠原 魁	理科	「水よう液の性質」 宇都宮大学 人見久城 教授	6年
10/17(木)	校内研修	中田 潤子	道徳	「いっしょに遊ぼう」	2年
11/21(水)	初任研	嶋脇 俊介	算数	「三角形」	3年
11/26(月)	学力向上	安生 知世	算数	「角」	4年
12/18(水)	学力向上	瀬端 愛美	算数	「くらべかた」	1年
12/19(水)	道徳研修	佐藤 史昌	道徳	「いつでもどこでも (礼儀)」	5年
1/9(水)	校内研修	学校課題の振り返り			研究主任
2月	校内研修	次年度の計画案			研究主任

## 4 本年度の成果と課題

### (1) 研究の成果

- ① 目的を明確にした対話活動を取り入れたことで、児童の学びの深まりに効果的に生かされていた。また、座席の配慮や前時までの学習内容の掲示、話し合いの視点の明確化など、話し合いのための土台をつくるのが、充実した対話活動へと繋がった。また、教師が発話を大切にしながら、全体での対話活動に取り組んだり、授業の展開を考えたりすることで児童の考えを深めることができた。
- ② 効果的な学習過程の工夫としては、導入を大切に、課題解決への見通しをもたせるようにした。さらに、教師と児童が対話しながら児童の言葉で授業のねらいを設定することで、授業のゴールが明確になり、児童が主体的に学習に取り組むことができた。
- ③ ブロック単位での指導案検討や事前授業の実施などの研究推進は、授業力向上や教師一人一人の学びのよい機会となった。また、宇都宮大学教授による、児童の見取り方についての講話や授業についての指導では、より専門的で多角的な視点でのアドバイスをいただくことができ、スキルアップに繋がった。
- ④ 研究授業では、参観者の観察する児童のグループをあらかじめ指定することで、児童の見取りがしやすくなった。さらに、同じグループを参観したメンバーで授業研究会の班を構成したことで、授業検討会において、児童の変容をもとに学びの深まりを話し合うことができ、教師の支援の仕方の研修にもなった。



### (2) 研究の課題

- ① 児童同士の対話活動には、個人差も大きく影響する。対話活動をより充実させ、児童自身が深い学びを実感するためには、相手への尋ね方や話のつなぎ方などを児童自身が身に付ける必要がある。そのためには、発達段階に応じた「話型」をつくり、学校全体の共通理解のもとに指導していく必要がある。また、一斉での話し合いで話し合いの方法を学ぶ場面も多いため、時間を確保できるようにしていきたい。
- ② 発話を大切にしたい授業に取り組んでいくためには、「より効果の高い発問とは何か」という点についての事前の検討がさらに必要であった。